陣内俊　Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESING WORKS /2008/All Rights Reserved

2025 年 4-6 月号
Vol.69

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈りと尊いご支援を心より感謝します。

5 月 12 日は私たち夫婦の結婚記念日でした。結婚したのが 2012 年ですから、13 年間共に歩んできたことになります。友人の絵本作家・かめおかあきこさんが描いてくださったウェルカムボードの隅に**「早く行きたければひとりで行きなさい、遠くまで行きたければ一緒に行きなさい」**というアフリカの諺を添えていただきました。最初の 5 年は二人で、現在は 2 人の子どもが加えられ四人の家族で神様にお仕えしているわけですが、振り返るとこの言葉が真実だったことを実感しています。

以前からお知らせしているように、2 年ほど前から「性的マイノリティの方々と共に歩む」という召しを神様からいただきました。現在は多くの当事者の方々と繋がり、同じく LGBT アライとして歩んでおられる牧師やクリスチャンの方々とも連帯していますが、「あなたには失望した」と離れていく人もいらっしゃいます。私としてはその方の確信を是非大切にしていただきたいのですが、それでもその度に手足をもがれるような痛みを経験します。また、私の主張を最後までよく聞かずに心無い中傷やハラスメントを浴びせる人（多くの場合匿名）もいらっしゃいます。その方々は善意と正義感と「信仰心」からそうしているのかもしれませんが、その度に私は体調を崩し、最近はストレスで胃腸の調子が悪く、胃カメラ検査で「逆流性食道炎」と診断されました。

結婚記念日を近所のレストランで祝いました

そんな 2 年間でしたが、それでもこの召しに従って歩んで来られたのは、私と同じく LGBT アライで、私の気持ちを聞き、常に寄り添い、励まし支え続けてくれた妻がいたからだと思います。**私は「福音的 LGBT アライ」を名乗って活動していますが、妻が「私のアライ」でいてくれるから歩み続けられます。**当事者の中には教会から「人間として扱われなかった」と感じ深く傷ついている方がたくさんいらっしゃいます。そのような方々に寄り添っておられるイエス様と共に、私自身、妻や支援者の皆様に支えられながら、召しを全うしていきたいと願っています。

熊本県阿蘇郡・高森キリスト教会との出会い

教会の前で菅原牧師と

3 月 29 日から 4 月 7 日までの 9 日間、熊本県阿蘇郡の高森キリスト教会に滞在しました。牧師の菅原亮先生（以下亮さん）は数年前に『もしイエス様が市長だったら』に出会い、「この宣教で教会形成をしていこう」と思ってくださったと言います。以降毎週『もしイエス様が市長だったら』の読書会を開催し、信徒の皆様とともに「全人的・包括的に地域に仕える教会」を目指してきたことを伺っていましたので、今回熊本を訪れ教会の皆様とお会いできたのは格別な奉仕の機会でした。2 回の日曜日の礼拝説教と午後のワークショップを通じて包括的宣教と被造物ケアについて話させていただき、それを実践に移していくお手伝いをさせていただきました。

亮さんが包括的に地域に奉仕していく必要に目覚めたのは 2016 年の熊本地震だったといいます。被災直後、全国から送られてきた支援物資を地元の方々にお配りに行ったところ「私たちには田んぼがあるから食べ物には困ってない。困ってるのはあなたがたなのだから、それは教会で食べなさい」と言われて愕然としたそうです。「教会は地域を助ける存在」と思っていたけれど、むしろ助けられ、心配されている。その後、牧師ご夫妻で「九州キリスト教災害支援センター（以下九キ災）」を通して熊本市の災害支援に本格的に関わるようになり、「魂の救済」だけを説いていく宣教のあり方では人々に届かないということを肌感覚で学びました。以下、九キ災編の書籍から亮さんの言葉を引用させていただきます。

私は震災後に、この南阿蘇の地に根ざし、強く生きておられる方々に出会いました。何かお手伝いをしたいと思って行っても、結局はその方々から私自身が多くのことを学ばせていただいていることが多いのです。代々この地域で土を耕し、地の生き物と共に地に根ざし生きている方々は、災害の中でも生きる術を知っておられます。その方々に比べて私自身はキリスト者と言いながら、まだまだ神さまが造られたこの地に根ざして、地に足をつけて生きていないのではないかということを、今回の災害を体験して思いました。神さまは本来この地の管理者として人を造られましたが、私たちはその役割を十分に果たしていないのではないだろうか、と思わされました。

この地震を通して、もっと私自身がこの地域を愛して、この地域に根ざして、神さまの目的の中で生きたいという願いを今受け取っています。（『「キリストさん」と呼ばれて』九州キリスト災害センター編　いのちのことば社　87 頁）

最初の 4 日間は家族四人で高森町に滞在しました

亮さんは九キ災で一緒に活動した諸藤栄一牧師と共に、緩和ケア病棟の患者さんと病院職員へのコーヒー提供や、地域の方々にランチと交わりを提供する「コミュニティカフェ」など熊本市内で包括的宣教活動を今も続けています。私も今回これらの活動に参加させていただきました。また、支援のときに地元の人から言われた「私たちには田んぼがある。困っているのはあなたがただろう」という言葉に触発され、高森キリスト教会は数年前から畑を借りて農業を行っています。自然農法を通して「神の被造世界と調和する農業」のあり方を追求してい

て、被造物と共に生きる農業それ自体が「教会の宣教の働き」なのだという亮さんの確信にも感銘を受けました。滞在中、教えるよりも学ぶことのほうが多かった 9 日間でしたが、2 回の礼拝説教とセミナーに教会員の方々が大変励まされ、教会の雰囲気が変わってきたと後日、亮さんから伺いました。秋には「地域に仕えるキリスト者養成コース」というかたちで 2 か月間のオンラインコースを提供させていただく予定です。神の前にかけがえのない「神の国の大使館」として置かれている地域教会にこのような形で貢献できたことは大きな特権です。皆様のお祈りに心より感謝します。

左：高森キリスト教会でのセミナー／中央と右：緩和ケア病棟で患者さんと病院職員の方々へのコーヒー提供ボランティア

メッセージ要約『辺縁の神』(5 月の虹ジャム礼拝)

「神は最も貧しい人、虐げられた人、抑圧された人を優先的に愛される」という言葉を FVI の柳沢美登里さんから聞いたのは 2008 年のことでした。イエスは**「まことに、あなたがたに言います。取税人たちや遊女たちが、あなたがたより先に神の国に入ります（マタイ 21：31b)」**と仰いました。当時のローマ帝国での「遊女」や「男娼」は戦争で寡婦や孤児になった女性や男の子がそのような仕事に人身売買的に追いやられるという「強制的管理売春」のシステムの犠牲者でした（『同性愛と新約聖書』小林昭博)。かつての第二次世界大戦時の「従軍慰安婦」にかなり似通った構造があります。そのような搾取的な社会構造の被害者をイエスは「(現在の社会の受益者・特権階級でありながらそのような人々を断罪する律法学者より）先に神の国に入っている」と言ったのです。

神学者のウェストは支配構造の維持と他宗教迫害のためにキリスト教を利用する「コンスタンティヌス的クリスチャン」と呼び、その対抗概念として「預言者的クリスチャン」を置きました（『アメリカ映画とキリスト教』木谷佳楠)。後者は、旧約の預言者のように、嘆き苦しむ民と共に苦しみ、共に生きるクリスチャンのことです。ローマ帝国の国教化以前の初代教会のキリスト者も、イエスご自身も「預言者的クリスチャン」だと私は信じます。2023 年、岐阜の JCE7 で日本の福音派の教会はこう告白しました。**「性的少数者、外国人、路上生活者、重い病や心や体の障害を持った方など、偏見や差別、無理解に苦しんでいる方々が教会にもいます。そのうめきや葛藤に耳を傾け、互いの弱さを担い合うことで、私たちをキリストの力がおおう教会としてください」。**私もこの祈りに加わります。「福音的 LGBT アライ」という私の歩みはその実践に他なりません。

加えてキング牧師が 1957 年のクリスマスに語った説教に私は賛同します。被抑圧者を解放する歩みは抑圧者をも「支配と差別のエートス」から解放する「二重の勝利」をもたらすのです（『イエスと非暴力』ウォルター・ウィンク)。イエスが「遊女が先に神の国に入っている」との言葉で被抑圧者だけでなく抑圧する律法学者たちをも最後には救おうとしたように、「預言者的クリスチャン」は「コンスタンティヌス的クリスチャン」にも自由をもたらします。

「辺縁の神」の動画はこちら

祈りの課題

◇純子・かなえ・ななみ・俊の体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。

◇今年も北海道に医療的な避暑を行います。酷暑による季節性鬱から守られるように。

◇働きによるストレスから体調が守られるように。主によく聞いて、何をするべきか、何をするべきでないかを判断する知恵が与えられるように。

◇YouTube／Podcast での発信を続けており、クリスチャンではない多くの方々や性的マイノリティ当事者にも聴いていただいています。聴いてくださる方々に神が日々を生きる希望を与えてくださるように。

2025 年 7 月以降の主な活動予定

月　日	内　容	場所、補足
7 月 20 日	礼拝説教	幡ヶ谷バプテスト教会（渋谷区）
7 月 30 日～9 月初旬	季節性鬱の予防のための転地療養	北海道（札幌／川湯）
10 月 27 日	FVI 総会	未定
随時継続的に	教会を建て上げる情報発信／訓練／啓発（エペソ 4：12）	国内各地／オンライン

＊上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼もこちらへ）

陣内への Email　shun@karashi.net　**無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索**

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

■ゆうちょ銀行口座番号　12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」

■他行からの振込　店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825　「陣内俊を支える会」

■郵貯振替口座番号　00830-1-142825　名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

＊**振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方**はお知らせください。

＊振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、**振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。**お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）

＊**Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方**は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。